

湧々座のイベントの舞台背景に使われるイラストを制作した学生4人と小川剛助教（前列中）
＝熊本市西区の崇城大



崇城大生 熊本市「湧々座」の舞台背景協力

崇城大芸術学部デザイン学科の学生4人が制作したイラストが、熊本市中央区の歴史文化体験施設「湧々座」の夏休みイベントで使われ、舞台を楽しく演出している。

イラストで怖さ後押し

妖怪伝説、怪談…楽しく演出

イラストが使われているのは「熊本のこわい話 湧々座おそろし御殿」。県内に残る妖怪伝説や小泉八雲の怪談などを役者が寸劇仕立てで演じる。

学生らは湧々座から依頼を受け、舞台背景に使うイラストやキャラクター作りに協力。加藤清正など登場人物の服装や時代設定を踏まえ、修正を重ねながら24カット、6キャラクターを制作した。

清正を担当した2年の椎葉玲菜さん(20)は「武将の格好や作法など時代考証も必要で勉強になった」。3年の谷崎仁美さん(20)は「怖い場面で盛り上がるような絵を描いた。小さな子どもたちに楽しんでほしい」とアピールしている。

指導と制作を担当した小川剛助教(34)は「仕事となれば修正や駄目出しもある。デザインのプロを目指す学生にとって、この上ない教材になった」と話している。

湧々座は桜の馬場城彩苑内。イベントは8月中の土・日曜日と13、14日にある。(福井一基)